

第70号

2018年8月31日

---

## 2018年度(平成30年度)中間決算について

---

株式会社日本旅行（本社：東京都中央区、社長：堀坂明弘）では、この度2018年度(平成30年度)における中間決算が確定致しましたので、お知らせ致します。

この件に関するお問い合わせは  
株式会社日本旅行 秘書広報部  
電話：03-6895-7860  
担当：若松・桑名・立石  
までお願い致します

## 平成 30 年 12 月期 中間決算概要

平成 30 年 8 月 31 日

会 社 名 株式会社 日本旅行

本社所在都道府県  
東 京 都

(百万円未満切捨て)

### 1. 30 年 6 月中間期の連結業績 (平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30 年 6 月中間期	24,029	△3.5	△ 735	—	△ 413	—	△ 363	—
29 年 6 月中間期	24,899	△0.1	△ 819	—	△ 424	—	△ 280	—
29 年 12 月期	52,626	△ 0.7	862	△38.1	1,792	△11.2	1,171	2.7

	1 株当たり中間 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 中間(当期)純利益
	円 銭	円 銭
30 年 6 月中間期	△ 6 06	— —
29 年 6 月中間期	△ 4 67	— —
29 年 12 月期	19 52	— —

(参考) 持分法投資損益 30 年 6 月中間期 238 百万円 29 年 6 月中間期 234 百万円 29 年 12 月期 478 百万円

#### (2) 連結財政状態

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30 年 6 月中間期	106,323	20,708	19.2	340 83
29 年 6 月中間期	97,826	20,028	20.2	329 76
29 年 12 月期	97,755	21,394	21.6	352 24

(参考) 自己資本 30 年 6 月中間期 20,449 百万円 29 年 6 月中間期 19,785 百万円 29 年 12 月期 21,135 百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
30 年 6 月中間期	6,711	△4,492	△71	10,335
29 年 6 月中間期	△234	3,514	△75	11,470
29 年 12 月期	6,400	△6,242	△144	8,401

### 2. 配当の状況

	1 株当たり配当金		
	中間期末	期末	年間
(基準日)	円 銭	円 銭	円 銭
29 年 12 月期	—	—	—
30 年 12 月期	—	—	0 00
30 年 12 月期 (予想)	—	—	—

### 3. 30 年 12 月期の連結業績予想 (平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	53,440	850	1,460	950	15 83

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無
- (2) 中間連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの）
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無
- (3) 発行済株式数（普通株式）
- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 30年6月中間期 60,000千株 29年6月中間期 60,000千株 29年12月期 60,000千株
- ② 期末自己株式数 30年6月中間期 一千株 29年6月中間期 一千株 29年12月期 一千株

(参考) 個別業績の概要

1. 30年6月中間期の個別業績(平成30年1月1日～平成30年6月30日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		中間（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月中間期	20,270	△4.2	△ 666	—	△ 103	—	7	—
29年6月中間期	21,151	△0.6	△ 779	—	△ 561	—	△ 330	—
29年12月期	44,987	△1.0	273	△60.7	698	△38.0	473	17.1

	1株当たり中間（当期）純利益	
	円	銭
30年6月中間期	0	13
29年6月中間期	△5	52
29年12月期	7	89

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
30年6月中間期	93,636	12,873	12,873	12,873	13.7	214	55	
29年6月中間期	83,597	12,403	12,403	12,403	14.8	206	72	
29年12月期	83,689	12,994	12,994	12,994	15.5	216	57	

(参考) 自己資本 30年6月中間期 12,873百万円 29年6月中間期 12,403百万円 29年12月期 12,994百万円

2. 30年12月期の個別業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	46,000	350	710	410	6 83

## 平成 30 年度中間決算の概要

### 1. 全般の状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、個人消費の持ち直しや輸出の拡大、好調な企業業績を背景とした設備投資の拡大などにより、緩やかな回復基調となりました。

旅行業界においては、国内旅行は募集型企画旅行が低調であったものの、全体としては堅調に推移したほか、海外旅行はテロや国際情勢の影響から順次回復し、拡大基調となりました。また、訪日外国人旅行（インバウンド）は大幅な需要拡大が継続し、訪日外客数は1月～6月の累計で過去最高を更新しました。

こうした状況のなか、当社グループにおきましては、中期経営計画「VALUE UP 2020」をさらに推進し、マーケット変化への対応と事業ごとの価値向上を図るべく、法人営業、個人旅行営業の各中核分野（インバウンド、教育旅行、MICE、BTM、インターネット販売）や地方創生事業への取り組みを一層強化するとともに、西日本エリアをはじめとしたJRセットプランやマッハ・ベストツアーの重点方面商品等の販売拡大に努めてまいりました。

法人営業では、各中核分野への取り組みを一層強化するとともに、大都市の有力企業や学校法人の取扱拡大に向けた組織営業の展開や、各エリアの誘客強化に向けた地域行政等との連携拡大に努めてまいりました。インバウンドでは、中央省庁や外郭団体、OTAを含めた海外現地エージェント等との連携を一層強化するとともに、インバウンド向け着地ツアーを展開する㈱DOA JAPANやメルボルンの現地旅行会社Tailor Made Pty Ltd への出資を行うなど、コンテンツや販売チャネルの拡充に努めてまいりました。教育旅行では私学などの修学旅行やスポーツ・文化系大会の受注拡大、新学習指導要領を踏まえた海外研修の提案強化等に取り組んだほか、MICEでは首都圏、京阪神をはじめとした企業等の需要やイベント・コンベンションの受注拡大に努めてまいりました。BTMでは、海外危機管理など総合出張管理システム「出張なび」の機能強化を図るとともに、企業や大学などの導入拡大や専門チームによる顧客フォロー、さらには出張以外を含めた総需要の獲得強化に取り組んでまいりました。また地方創生事業については、本社地方創生推進本部と各地域営業本部との連携のもと、地域行政やDMO等への提案強化を推進してまいりました。

個人旅行営業では、北陸や京阪神、瀬戸内などの西日本方面、JRDC（京都、栃木）との連動など当社の強みであるJRセットプランを一層強化するとともに、マッハ・ベストツアーでは、「No.1戦略国」として掲げるスペイン、ベトナム、カナダ、オセアニアやヨーロッパの販売拡大に向け、製販一体で取組強化に努めてまいりました。またシニア層の取り込みに向け、JR西日本との連携のもと「おとなび・ジパング倶楽部」会員向け商品の拡充に努めてまいりました。インターネット販売では、JRセットプランや現地払いの国内宿泊商品「My宿オンライン」、海外ダイナミック・パッケージなどWeb専用商品の拡充を図るとともに、宿泊検索のリニューアルなどにより利便性の向上に努めてまいりました。また店頭営業では、対面販売ならではのきめ細やかな対応によって顧客拡大とリピーター化を図るべく、創業50周年を迎えた日本旅行サービス㈱や㈱日本旅行オーエムシートラベルなどグループ一体で取り組みを進めてまいりました。

また、3月1日に京急観光㈱の一部事業を譲受するとともに、京浜急行電鉄㈱との連携により、京急線沿線の活性化と西日本エリアやアジアとの相互交流の拡大に向けた取り組みを開始しました。

また、コンプライアンスの推進に向け、個人情報保護法や独占禁止法、下請法など関係諸法令等の遵守をさらに徹底するとともに、女性が働きやすい環境の整備を目指した諸制度の展開やシステムのセキュリティ強化、リスク管理やCSのさらなる推進等に取り組んでまいりました。あわせて、各中核分野の強化や業務運営の効率化等に向け、在外子会社を含めたグループ各社との連携を一層強化してまいりました。

これらの結果、当中間連結会計期間の営業収益は240億29百万円（前年同期比96.5%）、営業損失は7億35百万円（前年同期比+83百万円）、経常損失は4億13百万円（前年同期比+10百万円）となり、法人税等を控除した中間純損失は3億63百万円（前年同期比△83百万円）となりました。

また、当期の個別決算につきましては、販売高は1,996億13百万円（前年同期比101.6%）、営業収益は202億70百万円（前年同期比95.8%）、営業損失は6億66百万円（前年同期比+1億12百万円）、経常損失は1億3百万円（前年同期比+4億57百万円）となり、法人税等を控除した中間純利益は7百万円（前年同期比+3億38百万円）となりました。

## 2. 営業施策の状況（数値は単体）

### <国内旅行部門>

赤い風船では、JR西日本をはじめとしたJR各社との緊密な連携のもと、北陸、京阪神、瀬戸内方面、「TWILIGHT EXPRESS瑞風」利用商品、各JRDC（京都、栃木）との連動商品などJRセットプランのさらなる充実を図るとともに、明治維新150年にあわせた商品や「My宿オンライン」を含めたWeb専用商品の強化に取り組んでまいりました。しかしながら、他社との厳しい競争のなか、赤い風船の販売高は、416億85百万円（前年同期比97.1%）となりました。

団体旅行では、企業の招待旅行や各種会議、学会などMICEの販売強化に加え、私学をはじめとした学校関連のスポーツ大会や文化系イベントなど教育旅行の取扱拡大等を推進し、販売高は335億68百万円（前年同期比99.2%）となりました。

国内の単品商品の販売高は、407億20百万円（前年同期比97.6%）となりました。

この結果、国内旅行販売高は1,188億94百万円（前年同期比97.5%）、営業収益は131億71百万円（前年同期比95.4%）となりました。

### <海外旅行部門>

マッハ、ベストツアーでは、「No.1戦略国」と位置付けるスペイン、ベトナム、カナダ、オセアニアや需要回復が鮮明なヨーロッパの強化に取り組むとともに、ダイナミック・パッケージを含めたWeb専用商品の拡充に努めてまいりました。この結果、マッハ、ベストツアーの販売高は154億4百万円（前年同期比108.3%）となりました。

団体旅行では、企業のインセンティブツアーや各種学校の語学研修の受注拡大などに取り組んでまいりましたが、競争が激化するなか販売高は90億86百万円（前年同期比96.0%）となりました。

国際航空券等の単品商品では、海外出張需要の拡大により、販売高は309億68百万円（前年同期比107.2%）となりました。

この結果、海外旅行販売高は580億95百万円（前年同期比104.4%）となりましたが、国際航空券に係わる取引形態の変化等により、営業収益は40億15百万円（前年同期比97.7%）となりました。

### <国際旅行（インバウンド）部門>

国際旅行では、政府の拡大政策等を背景に訪日需要がさらに拡大するなか、中央省庁や外郭団体、地方自治体の予算事業などへの取り組みを一層強化するとともに、ツアー型団体やFIT、JRパス等の取扱拡大に向けた海外有力エージェント（OTA含む）との連携拡大、ホテルや貸切バスの仕入強化などに取り組んでまいりました。

この結果、国際旅行販売高は224億87百万円（前年同期比119.9%）となりましたが、営業収益は一部券種における収益率の低下等により25億62百万円（前年同期比95.6%）となりました。

## 3. 通期の見通し

下期のわが国経済は、各種政策の効果等により、景気は緩やかな回復が続くことが期待されていますが、一方では、通商問題等による海外経済の減速などが景気の下振れリスクとして懸念されています。

こうしたなか、当社グループにおきましては、マーケット変化への対応と事業ごとの価値向上をさらに推進すべく、各中核分野（インバウンド、教育旅行、MICE、BTM、インターネット販売）や地方創生事業への取り組みを一層拡大してまいります。また、JR西日本をはじめとしたJR各社との連携をさらに強化し、北陸、京阪神、瀬戸内方面やJRDC方面（山陰、愛知）などJRセットプランの拡充を図るとともに、7月の西日本豪雨で被害を受けた各地を応援するキャンペーンにも取り組んでまいります。さらに、「おとなび・ジパング倶楽部」会員向け商品やWeb専用商品の充実、マーケット状況を踏まえたマッハ・ベストツアーの販売強化等を一層推進し、営業収益の確保に努めてまいります。あわせて、収入動向に応じた適切な経費執行を徹底し、通期業績予想の実現に向けて取り組んでまいります。

中間比較連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当連結会計年度 平成29年12月31日現在	当連結会計年度 平成30年6月30日現在	増 減
<b>(資産の部)</b>			
<b>I 流動資産</b>			
1. 現金及び預金	10,333	12,584	
2. 受取手形及び未収入金	24,589	25,551	
3. 短期貸付金	34,289	37,988	
4. その他 貸倒引当金	9,641	11,828	
	<u>△ 3</u>	<u>△ 19</u>	
流動資産合計	78,851	87,933	9,082
<b>II 固定資産</b>			
1. 有形固定資産			
(1) 建物及び構築物	4,716	4,758	
減価償却累計額	<u>△ 3,297</u>	<u>△ 3,335</u>	
(2) 土地	1,419	1,422	
(3) リース資産	792	669	
減価償却累計額	<u>△ 609</u>	<u>△ 544</u>	
(4) その他	4,243	4,249	
減価償却累計額	<u>△ 3,718</u>	<u>△ 3,721</u>	
有形固定資産合計	2,911	2,858	△ 52
2. 無形固定資産			
(1) ソフトウェア	1,990	1,771	
(2) のれん	107	90	
(3) その他	250	200	
無形固定資産合計	2,347	2,062	△ 285
3. 投資その他の資産			
(1) 投資有価証券	7,065	7,061	
(2) その他	7,093	6,935	
貸倒引当金	<u>△ 513</u>	<u>△ 527</u>	
投資その他の資産合計	13,645	13,468	△ 176
固定資産合計	18,904	18,389	△ 514
資産合計	97,755	106,323	8,568
<b>(負債の部)</b>			
<b>I 流動負債</b>			
1. 支払手形及び未払金	6,008	6,514	
2. 受託販売金	18,562	21,432	
3. 預り金	22,774	30,729	
4. その他	15,759	13,989	
流動負債合計	63,105	72,665	9,559
<b>II 固定負債</b>			
1. 退職給付に係る負債	9,029	8,884	
2. 旅行券引換引当金	2,401	2,243	
3. その他	1,823	1,821	
固定負債合計	13,255	12,949	△ 306
負債合計	76,361	85,614	9,253
<b>(純資産の部)</b>			
<b>I 株主資本</b>			
1. 資本金	4,000	4,000	—
2. 資本剰余金	3,001	3,001	—
3. 利益剰余金	13,386	13,022	△ 363
株主資本合計	20,387	20,023	△ 363
<b>II その他の包括利益累計額</b>			
1. その他有価証券評価差額金	724	785	60
2. 繰越ヘッジ損益	104	△ 84	△ 189
3. 為替換算調整勘定	59	△ 127	△ 187
4. 退職給付に係る調整累計額	△ 141	△ 147	△ 5
その他の包括利益累計額合計	747	425	△ 321
<b>III 非支配株主持分</b>			
	259	259	0
純資産合計	21,394	20,708	△ 685
負債・純資産合計	97,755	106,323	8,568

中間比較連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間		当中間連結会計期間		増 減	
	自 平成29年 1月 1日	至 平成29年 6月30日	自 平成30年 1月 1日	至 平成30年 6月30日		
I 営業収益		24,899		24,029	△ 869	
II 営業費用		25,718		24,765	△ 953	
営業 損 失		819		735	83	
III 営業外収益						
1. 受 取 利 息		52		66		
2. 為 替 差 益		80		3		
3. 持分法による投資利益		234		238		
4. そ の 他		55	423	42	351	△ 72
IV 営業外費用						
1. 支 払 利 息		24		25		
2. 為 替 差 損		-		-		
3. そ の 他		4	28	4	29	0
経 常 損 失		424		413	10	
V 特別利益		126		13	△ 113	
VI 特別損失		5		10	5	
税金等調整前中間純損失		302		410	△ 108	
法人税、住民税及び事業税		270		244		
法人税等調整額		△ 292	△ 22	△ 292	△ 48	△ 26
中間純損失		280		362	△ 81	
非支配株主に帰属する 中間純利益（△は損失）		0		1	1	
親会社株主に帰属する 中間純損失		280		363	△ 83	

(注) 記載金額は、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

中間比較連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前年差
		自平成29年1月1日 至平成29年6月30日	自平成30年1月1日 至平成30年6月30日	
		金 額	金 額	金 額
I	営業活動によるキャッシュ・フロー			
	1. 税金等調整前当期純利益 (△純損失)	△ 302	△ 410	
	2. 減価償却費	534	563	
	3. 貸倒引当金の増加額 (△減少額)	26	30	
	4. 退職給付に係る負債の増加額 (△減少額)	△ 105	△ 153	
	5. 売上債権の減少額 (△増加額)	△ 1,995	△ 985	
	6. 団体前払金の減少額 (△増加額)	△ 1,296	△ 1,751	
	7. 仕入債務の増加額 (△減少額)	257	964	
	8. 団体前受金の増加額 (△減少額)	△ 416	△ 819	
	9. 受託販売金の増加額 (△減少額)	38	2,869	
	10. その他	3,156	6,522	
	小 計	△ 103	6,829	6,932
	11. 法人税等の支払額等	△ 131	△ 118	
	営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 234	6,711	6,945
II	投資活動によるキャッシュ・フロー			
	1. 有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△ 792	△ 347	
	2. 有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	180	0	
	3. 貸付による支出	△ 42,588	△ 55,807	
	4. 貸付金の回収による収入	47,189	52,109	
	5. その他	△ 474	△ 446	
	投資活動によるキャッシュ・フロー	3,514	△ 4,492	△ 8,007
III	財務活動によるキャッシュ・フロー			
	1. リース債務返済による支出	△ 75	△ 70	
	2. その他	—	△ 1	
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 75	△ 71	3
IV	現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 109	△ 213	△ 103
V	現金及び現金同等物の増加額	3,095	1,933	△ 1,161
VI	現金及び現金同等物の期首残高	8,374	8,401	26
VII	現金及び現金同等物の期末残高	11,470	10,335	△ 1,135

(注) 記載金額は、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。



<<参考資料 1>>

中間比較貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 平成29年12月31日現在		当事業年度 平成30年6月30日現在		増 減
<b>(資産の部)</b>					
<b>I 流動資産</b>					
1. 現金及び預金		3,243		5,677	
2. 未収入金		18,925		21,454	
3. 短期貸付金		34,759		37,987	
4. その他 貸倒引当金		9,789		11,851	
		<u>△ 6</u>		<u>△ 4</u>	
流動資産合計		66,711		76,966	10,254
<b>II 固定資産</b>					
1. 有形固定資産					
(1) 建物及び構築物		3,928		3,987	
減価償却累計額		<u>△ 2,845</u>	1,083	<u>△ 2,900</u>	1,087
(2) 土地			763		763
(3) リース資産		778		652	
減価償却累計額		<u>△ 597</u>	181	<u>△ 531</u>	120
(4) その他 減価償却累計額		3,072		3,084	
		<u>△ 2,841</u>	231	<u>△ 2,846</u>	237
有形固定資産合計		2,259		2,209	△ 50
2. 無形固定資産		2,002		1,765	△ 236
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券		6,186		6,365	
(2) その他 貸倒引当金		7,219		7,039	
		<u>△ 690</u>		<u>△ 711</u>	
投資その他の資産合計		12,715		12,694	△ 20
固定資産合計		<u>16,977</u>		<u>16,669</u>	△ 307
資産合計		<u>83,689</u>		<u>93,636</u>	9,947
<b>(負債の部)</b>					
<b>I 流動負債</b>					
1. 未払金		3,682		3,994	
2. 短期借入金		5,175		8,300	
3. 旅行預り金		18,142		23,512	
4. 受託販売金		14,847		17,522	
5. その他 流動負債合計		<u>16,993</u>		<u>15,936</u>	
		58,841		69,267	10,425
<b>II 固定負債</b>					
1. 退職給付引当金		7,780		7,599	
2. 旅行券引換引当金		2,401		2,243	
3. その他固定負債		1,671		1,653	
固定負債合計		<u>11,853</u>		<u>11,496</u>	△ 357
負債合計		70,694		80,763	10,068
<b>(純資産の部)</b>					
<b>I 株主資本</b>					
1 資本金		4,000		4,000	—
2 資本剰余金					
(1) 資本準備金		3,001		3,001	
資本剰余金合計		3,001		3,001	—
3 利益剰余金					
(1) 利益準備金		250		250	
(2) その他剰余金 別途積立金		1,004		1,004	
繰越利益剰余金		3,926		3,934	
利益剰余金合計		5,180		5,188	7
株主資本合計		12,181		12,189	7
<b>II 評価・換算差額等</b>					
1 その他有価証券評価差額金		706		768	
2 繰延ヘッジ損益		106		△ 84	
評価・換算差額等合計		812		683	△ 129
純資産合計		<u>12,994</u>		<u>12,873</u>	△ 121
負債純資産合計		<u>83,689</u>		<u>93,636</u>	9,947

(注) 記載金額は、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

<<参考資料 2>>

中間比較損益計算書

(単位：百万円)

	前中間事業年度 自平成29年1月1日 至平成29年6月30日	当中間事業年度 自平成30年1月1日 至平成30年6月30日	増減
I 営業収益			
1.国内旅行	13,805	13,171	
2.海外旅行	4,108	4,015	
3.国際旅行	2,681	2,562	
4.附帯旅行	554	520	△ 880
	21,151	20,270	
II 営業費用	21,930	20,936	△ 993
営業利益	△ 779	△ 666	112
III 営業外収益			
1.受取利息及び配当金	174	526	
2.その他	74	73	349
	249	599	
IV 営業外費用			
1.支払利息	30	35	
2.その他	0	1	5
経常利益	△ 561	△ 103	457
V 特別利益	126	13	△ 113
VI 特別損失	0	1	0
税引前中間純利益	△ 435	△ 91	343
法人税、住民税及び事業税	53	53	
法人税等調整額	△ 157	△ 152	4
中間純利益	△ 330	7	338

(注) 記載金額は、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

<<参考資料 3>>

平成30年度中間決算 販売高及び営業収益

【販売高】

(単位：百万円)

区 分 種 別	前 中 間		当 中 間		前年比較	
		構成比 (%)		構成比 (%)	増 減	前年比 (%)
国 内 旅 行	121,923	62.0	118,894	59.6	△ 3,029	97.5
海 外 旅 行	55,626	28.3	58,095	29.1	2,469	104.4
国 際 旅 行	18,757	9.5	22,487	11.3	3,730	119.9
付 帯 事 業	219	0.1	134	0.1	△ 84	61.4
計	196,526	100.0	199,613	100.0	3,086	101.6

【営業収益】

(単位：百万円)

区 分 種 別	前 中 間		当 中 間		前年比較	
		構成比 (%)		構成比 (%)	増 減	前年比 (%)
国 内 旅 行	13,805	65.3	13,171	65.0	△ 634	95.4
海 外 旅 行	4,108	19.4	4,015	19.8	△ 93	97.7
国 際 旅 行	2,681	12.7	2,562	12.6	△ 118	95.6
付 帯 事 業	554	2.6	520	2.6	△ 34	93.8
計	21,151	100.0	20,270	100.0	△ 880	95.8